

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	6
➤ JRRN 会員募集中	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う IV」講演録

JRRN では今年度、「小さな自然再生」事例集編集委員会の協力を得ながら、過年度成果の事例集を全国に普及するとともに、本分野の情報交換や交流のコミュニティを構築し、小さな自然再生の仲間と裾野を広げるための普及促進活動を実施中です。昨年 9 月 10 日に応用生態工学会郡山大会 で開催した、自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う IV」の講演録を公開しましたので報告致します。

自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う IV」概要

【日時】 2015年9月10日(木) 16:00~18:00
 【場所】 日本大学工学部キャンパス (福島県郡山市)
 【企画】 林博徳 (九州大)、三橋弘宗 (兵庫県立大)、原田守啓 (岐阜大)
 【プログラム】 (司会進行: 林博徳・原田守啓)

■ 話題提供:

- ①これまでの経緯と発行した事例集の紹介
和田彰 (JRRN 事務局)
- ②各地の事例紹介
 - (1)福岡での取り組み (地域で守る室見川の「環境」と「文化」～シロウオ産卵床造成プロジェクト) 伊豫岡宏樹 (福岡大学)
 - (2)高知での取り組み (三崎川における取り組み - 市民主導型の手づくり魚道) 山下慎吾 (魚山研/高知工科大学)
 - (3)京都での取り組み 竹門康弘 (京都大学)

■ 質疑および総括

◇ コメンテーター:
玉井信行 (東京大学名誉教授、JRRN 顧問)、島谷幸宏 (九州大学)

◇ コーディネーター: 三橋弘宗 (兵庫県立大学)



4 回目となるこの自由集会は、2012 年より毎年開催され、各地の事例紹介や普及にむけた課題等について議論・整理してきたもので、本講演集を通じて、当日ご参加頂けなかった皆様にもご活用頂ければと思います、発行に至ったものです。

講演録は以下よりダウンロードできます。

■ 「自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う IV」講演録」(2016年2月発行) はこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/129>

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

“国際河川賞 2016 (International Riverprize)”募集のご案内(3/11〆切)

JRRN では、河川再生に関わる日本の優れた経験・知見を海外に広く普及していくことを目的に、本年も英語公開情報に基づき『**日本が誇る河川再生の経験を世界に伝えよう！ “国際河川賞 2016”応募要領**』(日本語版)を作成しました。



※応募要領のダウンロードはこちらから

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/665.html>

＜応募要領目次＞

1. はじめに～応募要領作成の目的～
2. “国際河川賞”主催者からのメッセージ
3. 国際河川賞 (International Riverprize) とは？
4. 過去の受賞河川の紹介
5. 応募から受賞までの流れ (必要諸手続き含む)
6. 受賞した場合の義務や期待される役割
7. 参考資料 (関連英語資料の入手先 URL)

国際河川賞 (International Riverprize) は、パートナーシップに基づく河川・流域再生を讃える国際的にも名誉ある賞の一つで、河川・流域再生の成功経験の共有を目的に毎年秋に開催される国際河川シンポジウム (International Riversymposium) において最優秀河川が毎年 1 つ選ばれます。

本年は国際河川賞の応募締切が **2016年3月11日 (金)** に決まり、3月下旬に一次審査の発表、また6月の二次応募と選考プロセスを経て、7月上旬には最終選考に進む4河川前後が発表されます。そして、9月12日 (月)～14日 (水) に**インド・ニューデリー**で開催される**第19回国際河川シンポジウム**において最終選考河川による口頭発表が行われ、9月13日 (火) には最優秀河川が決まる予定です。



※第19回国際河川シンポジウムの案内ページ

<http://riversymposium.com/>

※2016年の国際河川シンポジウムは、これまでのオーストラリアではなく、インド (ニューデリー) で初めて開催されます。

この国際河川賞には、河川、湿地、湖沼、河口域における再生や保全に取り組む団体が応募できます。本要領をご覧になり、国際河川賞への応募をご検討の際は、JRRN 事務局までご連絡をお待ちしております。資金面でのサポートはできませんが、応募や各申請過程における可能な範囲の助言と支援にご協力させていただきます。

なお、主催団体である国際河川財団 (International Riverfoundation) より、JRRN 会員をはじめ日本の河川再生に取り組む方々へ以下のメッセージが届いています。

日本で河川・流域再生に取り組む皆様へ

河川賞は、河川、湿地、湖沼の持続的な管理に向けた努力を報い、支援することを目的に私たち国際河川財団が主導し企画するものです。そして、これまで世界中の組織・団体が国際河川賞に輝き、価値ある名誉と称賛を得てきました。

本年の国際河川賞への応募は 2016年3月11日 (金) まで受け付けています。応募申請は国際河川財団の以下のホームページをご覧ください。

http://www.riverfoundation.org.au/riverprize_entering.php

日本の皆様のご応募をお待ちしております。



Charlotte Spliethoff,

国際河川財団

BUSINESS DEVELOPMENT & PROGRAM MANAGER

(JRRN 事務局・和田彰)



あの日のあの川 リレー日記 ～第13話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第13話主人公 高鳥 圭亮

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：茨城県宮田川)

「随筆：上高地」

いつのこと？：大学生

どこの川？：梓川

僕が旅に出る理由はだいたい百個くらいあって……

そんなにあったっけかな？とにかく私は一人旅に出たのだ。目指すは長野、上高地。とにかく、現実味のない場所へ行きたかった。周囲との人間関係の面倒くさいところをたくさん抱えていた大学3年の初秋の話である。

上高地は北アルプス槍ヶ岳に源を発する梓川が形成した堆積平野で、国の文化財にも指定されている景勝地である。山・森林・川といった風景に加え、温泉やキャンプ場などもあり、年間150万人もの人々が訪れ賑わいを見せている。

私は鈍行を乗り継ぎ、新島々駅からバスで、ゆっくりと向かっていった。リュックサックには余計なものばかり詰め込まれていた。高速化する観光はどうしても好きになれない。旅は道程に価値があって、時間があるのならば時間をかけていきたい。人との旅行ではこんな我儘、言えないけれども。

スローに移り変わる車窓からの風景と、iPod から流れる音楽が溶け合い、うんざりする日常からの脱出が一時的だけれどもそこにはあった。

そうして行き着いた9月の頭の上高地では、まだ夏の姿を残しつつも蝉の声ひとつ聴こえず、文字通りの「森閑」を感じさせてくれた。梓川右岸の遊歩道を踏みしめてゆき、大正池から数kmの間に次々と風景は形を変えてゆく。山地帯と亜高山帯の境界に位置する上高地では、落葉広葉樹林と針葉樹林が混在し、加えてヤナギやカラマツなど河川林もみられ、豊かな植生が眼前に広がる。そして何より、梓川。明鏡止水——厳密に言えば川は流れているのだが——水面は実に穏やかだった。穏やかで清澄な梓川には、それだけではない一面も持っていた。林の中を流れる梓川は、植生やプランクトンのせい、ところどころ緑から紺のグラデーションを形成している。「綺麗」と一言で片づけることもできるだろう。しかし、それはどこか混沌としているようにも見え、自然の生み出すある種の狂気を孕んでいるように私には感じられた。それは今思えば私の知覚のある種のエゴだったかもしれない。すっかり淀んでいた自分の心境を、逃避地としてのここに代弁して欲しかった…なんてね。

風景写真家を一種の芸術家として考えると、殊に知覚に優れた存在なのではないだろうか。誰もが同じく見えるはずの「風景」に意味を見出し、切り取り、作品として残す。情景に自分の感覚を反映させる印象派の絵画とは旨趣が違ふ。自分も今では一眼レフのカメラを所持しているが、センスが無いためなかなか良い写真を撮ることが出来ない。

上高地のマガモたちは人間を恐れない。ここは浮世からちょっと離れた場所。私は明神池近くの売店で塩焼きの鮎を買ひ、梓川を腹に放り込んだ。自然から着想を得てあれこれ思索することは好きだ。旅に出る理由なんてそれで充分かもしれない。この地を開拓した登山家ウォルター・ウェストン卿は何を想っていたのだろうか。私は、日常への帰路へ就いていた。



(次は向田隼さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.81

岡村幸二 (JRRN 会員)

山河に縁取られた風景： ダイナミックな山岳地形を背景に扇状地に広がる前橋市街地



撮影：2014年12月 (群馬県前橋市・利根川)

◆群馬の空っ風に向かって

群馬県で知られる名山は赤城山、浅間山、妙義山、榛名山など数多くありますが、北西風が山並を越えた後には乾燥した“空っ風”となって前橋市街にも強い風を吹かせます。

◆山河がもたらす様々な恩恵

地上 32 階の展望台からの眺めていると、眼下の前橋市街地の発展が群馬の山々から運ばれる川の流れや大地の恵みによって育まれてきたことが実感されます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

会議・イベント案内 (2016年2月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 高梁川ミーティング～高梁川流域の昨日と明日～

- 日時：2016年2月6日(土) 10:00～15:30
 - 主催：一般社団法人 高梁川流域学校
 - 場所：倉敷中央病院大原記念ホール (岡山県倉敷市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2337.html>

■ 石井樋 400 年祭シンポジウム

- 日時：2016年2月7日(日) 13:00～16:30
 - 主催：NPO 法人嘉瀬川交流軸
 - 場所：佐賀市文化会館イベントホール (佐賀県佐賀市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2295.html>

■ 筑後川の水害リスク座談会

- 日時：2016年2月9日(火) 13:30～17:00
 - 主催：(一社) 北部九州河川利用協会 他
 - 場所：久留米大学 御井学舎学生会館 (福岡県久留米市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2327.html>

■ 公開講座「水循環・水環境と下水道」への取り組み

- 日時：2016年2月9日(火) 10:30～16:00
 - 主催：鞍瀬塾事務局
 - 場所：西条市東予総合福祉センター (愛媛県西条市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2333.html>

■ 生きもののにぎわい復活に向けて

- 日時：2016年2月11日(木) 13:30～16:20
 - 主催：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 他
 - 場所：コラボしが 21 3 階大会議室 (滋賀県大津市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2308.html>

■ 第一回 防災・減災シンポジウム

- 日時：2016年2月12日(金) 13:00～17:30
 - 主催：国土交通省九州地方整備局
 - 場所：電気ビルみらいホール (福岡県福岡市中央区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2304.html>

■ 琵琶湖・淀川流域圏交流フォーラム

- 日時：2016年2月20日(土)～21日(日)
 - 主催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
 - 場所：京都大学防災研究所 (京都府京都市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2302.html>

■ 2016 年度河川技術に関するシンポジウム

- 日時：2016年6月2日(木)～3日(金)
 - 主催：公益財団法人 土木学会
 - 場所：東京大学農学部 弥生講堂 (東京都文京区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2291.html>

書籍等の紹介 *Publications*

■ できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

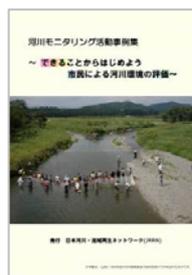
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

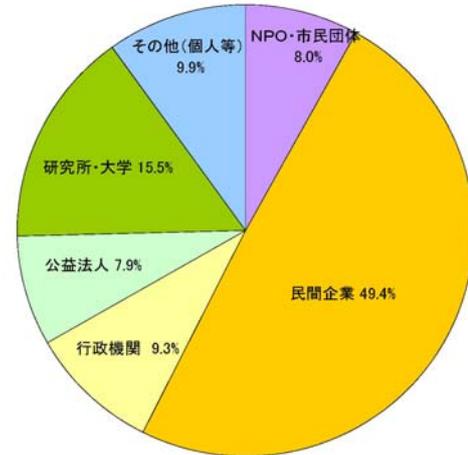
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2016年1月31日時点の個人会員構成

(個人会員数：726名、団体会員数：59団体)

※1月の新規入会数：個人会員2、団体会員2

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

